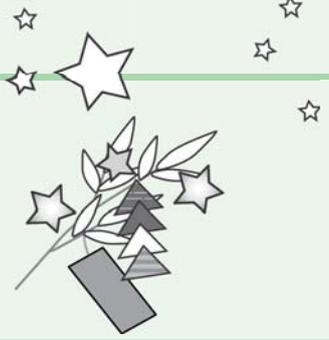




たまシネマ通信

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
 代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>



Contents

- 特別上映会『季節、めぐり それぞれの居場所』
- 特別上映会レポート「活動写真弁士の説明によるサイレント映画上映会 in TAMA」
- 特別上映会予告『隣る人』
- TAMA NEW WAVE News
- お知らせ etc.

特別上映会『季節、めぐり それぞれの居場所』

— 介護の原点を「老いと死」を通して、再び見つめ直す —

『ただいま それぞれの居場所』『無常素描』に続く、大宮浩一監督による最新ドキュメンタリー作品。

大宮監督との初めての出会いは一昨年、特別上映会で『ただいま それぞれの居場所』を掛けた時でした。トークの打ち合わせで池袋に出向いた時「半袖のワイシャツに黒縁のメガネ、黒いリュックを背負っています」の返事が「薔薇を啜ってお待ちしています」でした。映画業界に無菌状態の私としては「かなりヤバイかな」と、おっかなびっくりでした。お会いしてみると配給会社東風の渡辺さん共々すぐに意気投合してトークの打ち合わせというより、取り留めのない話で盛り上がり帰ってきました。「自然体で生きている人なんだなあ」というのが残った印象でした。



その後の監督は『ただいま それぞれの居場所』で紹介された、介護に携わる若者たちの広島でのトークセッションを撮った『9月11日』、東日本大震災の現状を震えるような静けさで映し出した『無常素描』、そして今回の『季節、めぐり それぞれの居場所』と立て続けに3本の作品を送り出し、私などはその精力的な活動に生き急ぎの不安を感じています。

今回の『季節、めぐり それぞれの居場所』では前回の『ただいま それぞれの居場所』の子安さんの「死」と、残された娘たちの「きよとん」としながら語る父の「死」。「井戸端げんき」での衰弱していく田中千代さんへの「看取り」。老いの現実に加え、「看取る」ことの現実。対極に東日本大震災の膨大な「死」と向かい合わなければならなくなった私たちの現実。日常の影に隠されていた「死」がこれほど露わにされた今、今回の上映作品は「立ち尽くす」私達に細いが強い光を見せてくれると信じています。季節をめぐりながら映しだされる残酷な美しさを、今は静かに刮目してください。(竹内)

◆大宮浩一 監督 (おおみや・こういち) ◆

1958年生まれ。映画監督、企画、プロデューサー。日大芸術学部映画学科在学中より映像制作に参加。『ゆきゆきて、神軍』(87/原一男監督)等で助監督を務める。93年、有限会社大宮映像製作所を設立。2010年、『ただいま それぞれの居場所』を企画、製作、監督。「平成22年度文化庁映画賞文化記録映画大賞」を受賞。同年、若い介護スタッフたちのトークライブを記録した『9月11日』を企画、製作、監督。2011年東日本大震災で津波の被害を受けた土地の風景とそこで出逢った人々の声を記録した「無常素描」を企画、製作、監督。今回の特別上映会は『ただいま それぞれの居場所』『無常素描』に続く3度目の上映となる。(『季節、めぐり それぞれの居場所』HP: <http://kisetsumeguri.com>)

TAMA NEW WAVE NEWS



第13回TAMA NEW WAVE (11/18(日)開催予定)

TAMA NEW WAVE は、日本映画界に新風を送り込む新しい才能を発見し TAMA より広く発信することを目的とした、中・長編映画コンペティションです。2000年に第1回目が開催され、今年で13回目を迎えます。国内の作品を対象に、実行委員の審査を経てノミネートされた応募作品の中から、委員会内の評価と一般審査員の票によって、グランプリを決定いたします。ゲスト審査員による特別賞もあります。

詳細は <http://www.tamaeiga.org/>
http://twitter.com/tcf_nw

[歴代の主な受賞作品 (☆は各監督の最近の活躍)]

	作品名	監督
第2回	『自転車とハイヒール』	深川 栄洋 ☆最新作『ガール』(出演:香里奈ほか) 劇場公開中
第8回	『かざあな』	内田 伸輝 ☆『ふゆの獣』(2010) が第11回東京フィルメックスコンペ部門最優秀作品賞受賞
第10回	『最低』	今泉 力哉 ☆最新作『こっぴどい猫』(主演:モト冬樹) 7/28 公開
第11回	『未来の記録』	岸 建太朗 ☆本作が昨年劇場公開
第12回	『私の悲しみ』	堀内 博志 ☆本作が 7/7 劇場公開

TAMA NEW WAVE関連公開予定作品

『私の悲しみ』.....

あらすじ

——東京に暮らす主婦は深い悲しみを抱えていた。妻から逃げるようにある場所へと向かう夫。——あるミュージシャンの前に、弟が彼女を連れて現れた。——あるOLは付き合っている男に不安を募らせていた。そこへ一人の女がやって来る…。14人の登場人物が複雑に交差し浮き彫りになっていく、それぞれの「悲しみ」。それらが不器用に絡み合いながらも、やがて姿を変えていく……。

作品紹介

昨年度 TAMA NEW WAVE コンペティションのグランプリ・女優賞ダブル受賞作品。監督は2011年に『加地等がいた—僕の歌を聴いとくれ—』で劇場デビューを果たした堀内博志。ちょうど編集作業中に東日本大震災が起こり、作品を完成させる意味について悩みに悩んだとのこと。その過程を経て出来上がってきた本作は、人間の悲しさ、愚かさ、そして美しさ、希望。すべてを優しく見つめながら、一人一人のかけがえのなさをたたえた人間愛に満ちた作品となっております。まさに今、多くの人に観て欲しい映画です。

監督・脚本・編集：堀内博志 出演：永峰絵里加 ほか 配給：トラヴィス 92分
7/7(土)より渋谷ユーロスペースにてレイトショー公開



『こっぴどい猫』.....

作品紹介

ダメ恋愛映画の名手による、モト冬樹生誕60周年記念作品！本作は、今泉力哉が描き続けて来たリアリティのある空気感で描くグズグズのダメ恋愛ドラマにして、モト冬樹演じる初老の作家を軸に、総勢15人の男女が登場、7つの三角関係が交差する究極のダメ恋愛群像劇。

監督・脚本・編集：今泉力哉 主演：モト冬樹
配給・宣伝：SPOTTED PRODUCTIONS 130分
7/28(土)より新宿 K's シネマほかにてレイトショー公開



© 2012 DUDES

5/19 (土) 特別上映会レポート

「活動写真弁士の説明によるサイレント映画上映会 in TAMA」

去る5月19日(土)、「活動写真弁士の説明によるサイレント映画上映会 in TAMA」を開催いたしました。

今年度のアカデミー賞で最多5部門を受賞した白黒サイレント映画『アーティスト』。3D映画が増える昨今、それは驚くべきことであり、多くの方が映画の本質をいま一度再確認できる良いきっかけとなったのではないのでしょうか。日本では、このサイレント映画のストーリーに弁士が説明をつけるという独自に発展していった文化があり、現在でも続いています。その素晴らしい文化を楽しんでもらおうと、本上映会を企画いたしました。

今回説明していただいた方は、日本のみならず世界をも股にかける活動写真弁士・片岡一郎さん。『大列車強盗』、『喧嘩安兵衛』、『月世界旅行』など、洋邦混ぜた5本の映画の説明をお願いしました。

片岡さんは着物で説明することが多いですが、この上映会ではなにやら怪しげなマントを羽織って登場。どうやらカリガリ博士(有名なドイツのサイレント映画に出てくる主人

公)に扮した格好だそうです。

ラストがカッコいい『大列車強盗』から始まり、途中、1作品は弟子の山城秀之さんが担当し、ドタバタ劇で大笑いの『ローレル&ハーディ 二人の水夫』で締める、贅沢な1公演90分。個人的に、最後の『ローレル&ハーディ 二人の水夫』は毎回微妙に説明が異なり、舞台袖から全公演を観ていた私は毎回飽きずにいられ、至福の時でした。

ところで、片岡さん担当の説明1日3公演×山城さん担当分を除いた4本、つまり、計12本の説明をしていただきました。ご本人も1日でこれだけ説明することはないとおっしゃっていて、後々「大変な企画をしてしまった……」と思っていました。それでも全公演、お客さんが本当に大満足しており、片岡さん自身も楽しんでいらしゃったので、企画した甲斐があったと感じております。

片岡一郎さん、山城秀之さん、そしてお越しくくださった皆様、本当にありがとうございました。(瑞)



次回特別上映会8/25(土)は『隣^{とな}る人』を上映予定

「日常」が映画になるとは当初思っていなかった。…『隣る人』の舞台となった児童養護施設「光の子どもの家」の現理事長・菅原哲男氏はこう言います。確かに、ここに映し出されているのは、一緒にご飯を食べ学校に行き宿題してお手伝いしてお風呂に入り一緒に寝て、時には怒られ時には褒められ、そしてぎゅっと抱きしめられる…そんな、一見ごく当たり前に思える「日常」です。

親と一緒に暮らせない子どもたちが保育士たちと一緒に暮らす日常を描いた本作品ですが、そんな「日常」がとりわけ子どもたちにとってどれほど大切なことか、また「隣(とな)る」とはどういうことなのかが、観た方お一人お一人の中でゆっくりと様々な深さや奥行をもって広がっていくと思います。

この春から夏にかけてポレポレ東中野でロングランになった本作品を多摩でも上映します。トークゲストには刀川(たちかわ)和也監督と菅原哲男氏もお招きする予定です。お一人でも多くの方のお越しを心からお待ちしております。(越智)

*上映時間など詳細は、HP (<http://WWW.tamaeiga.org/>)、チラシなどをご覧ください。(チケットは7/16より発売予定)



☆ 映画祭実行委員 & たまシネマ隊 ☆

お知らせ

今年度も2回行いました実行委員募集説明会への多数のご参加ありがとうございました!

全体説明会は終わりましたが、個別説明会は随時行なっていますので、ぜひお問い合わせください。

また、映画祭期間(10月~11月)のみお手伝いしていただく期間ボランティア「たまシネマ隊」の募集説明会を今年も行います!

今年は9/30(日)と10/14(日)に説明会を開催予定です。映画祭の裏側を見ることができて、貴重な体験ができますよ!



昨年のシネマ隊募集説明会の様子

TAMA CINEMA FORUM 第22回映画祭

第22回映画祭は11月17日(土)から11月24日(土)まで開催の予定です。現在は映画祭でどんな作品を上映しようかと実行委員が企画案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。そして第4回目を迎える日本で一番早い(!?) TAMA 映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。皆さん、どうぞお楽しみに!

また、今年で第13回を迎えるTAMA NEW WAVEも作品募集中(7月27日(金)必着)です。回を重ねるごとに充実度が増していくコンペティションも、ぜひご期待ください。

最新情報はこちらで! <http://www.tamaeiga.org/> twitterでも情報発信! <http://twitter.com/tamaeiga>



第3回 TAMA 映画賞授賞式



第12回 TAMA NEW WAVE 授賞式

支援会員募集中です!

「実行委員やたまシネマ隊として参加するのは難しいけれどTAMA映画フォーラムを応援したい」そんな方はぜひ「支援会員」としての応援をお願いいたします。

支援会員募集要項

1. 郵便振替の用紙で登録をしていただきます。
2. 用紙に必要事項を書き込んで下記委員会宛にお送りください。
3. 支援金寄付 個人会員 一口1000円
4. ご協力いただいた支援会員の方には新たに会員証を発行いたします。会員証のご提示により、映画祭のパンフレットの贈呈、年数回の特別上映会の入場料割引などの特典がございます。

- お問い合わせ先 TAMA映画フォーラム実行委員会 支援会員募集係 E-mail: tcf-support@tamaeiga.org
- 申込み先 郵便振替番号 00160 - 5 - 541123 加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会